

政務活動費 視察・研修会等 報告書

- | | |
|--------|---|
| ・日 時 | 平成29年11月1日（水） |
| ・場 所 | 市町村アカデミー |
| ・参 加 者 | 公明クラブ（周東照二 山之内肇） |
| ・項 目 | 市町村アカデミー開設30周年記念特別講演会
～人口減少時代の政策課題～ について |

◎概 要

（１）説明要旨

演題「これからの時代における市町村の責務」

講師 元内閣官房副長官 古川 貞二郎 氏

◎地方の時代

機関委任事務の廃止＝歴史的改革であった。

しかしながら、税財源配分が不十分であり、市町村の不満は解消されない。

そうした状況下にあっても、市町村の使命は大きい。

◎これからの行政（←市町村の責務と捉えた）

- ・内外の課題を的確、迅速に対処。

情報をオープンにして国民（市民）に正確に伝えていくこと。

- ・中長期的な視点・展望（＝“軸”をしっかりとらせるという意味）を、国民（市民）に明らかにしていくこと。

どういう地域にするのか？ どういうまちづくりをするのか？

特性・環境・人口動態などを十分に踏まえた将来展望を描くことが重要である。

◎具体的課題について

<少子高齢化>

- ・健康寿命を平均年齢に近づける。
(男性は9年、女性は11年以上もの開きがある)
各自治体が住民の意向を踏まえて、健康施策を充実させていくことが重要。
- ・高齢者が当たり前に生活できる社会＝元気な高齢者が活躍できるまちを目指す。
- ・結婚しやすい社会＝子どもが生まれ易い社会＝子育てがし易い社会をつくっていくことが必要。

◎リーダー論 (後藤田 正晴 元官房長官から学ぶ)

言動の一致：リーダーとしての見識

信念 : いったん決めたらブレない。でもその過程では塾考が必要。

胆力 : 公のため、世のため → 使命感から生まれてくる

洞察力 : 目先のことにとらわれず、中長期的に。

「歴史から評価される」という位の気概で進むべし。

包容力・度量・柔軟性

奢らない・謙虚・柔軟性

パネルディスカッション：新しい時代の地域社会について語る

コーディネーター：NHK 解説副委員長 島田 敏男 氏

パネリスト：愛媛県知事 中村 時広 氏

東京都三鷹市長 清原 慶子 氏

島根県邑南町長 石橋 良治 氏

弘前大学大学院地域社会研究科長・教授 北原 啓司 氏

前市町村職員中央研修所学長 林 省吾 氏

<中村 時広氏>

商社マンから県議会議員・衆議院議員・松山市長を経て現職。

(そうした経験から) 政策に無駄が多いことを実感。

地方行政は、とりわけ現場目線での政策立案が必要である。

<清原 慶子氏>

三鷹市 人口18万6,000人

「価値創造都市・三鷹」の推進に取り組んでいる。

- ・これからの地域社会を考える上でのキーワード 「か・き・き・け・こ」

- 「か」 環境 : 持続可能
- 「き」 危機管理 : 防災・防犯・テロ対策・都市再生・避難所整備
- 「き」 協働 : 市民参加・パートナーとしての意識づけ
公募市民の住民協議会によるコミュニティ施設の管理
運営、無作為抽出(手を挙げる人だけではなく)の市民の
皆様による市民討議会での意見の基本計画や諸施策へ
の反映 など
- 「け」 経営
- 「こ」 コミュニティ : 地方創生の前に「コミュニティの創生」が必要

<石橋 良治氏>

島根県邑南町 人口1万1,208人 「持続可能なまち」を目指している。

キーワード 「“攻め”と“守り”の政策」

- ・「“攻め”のA級グルメ構想」:
6次産業化(食と農)の取り組みによる社会増の実現
- ・「“守り”の日本一の子育て村を目指して」:
身近で安心な医療体制
子供医療費の無料(中学3年生まで)
第2子目から保育料無料 保育所完全給食 など
- ・「徹底した移住支援」

<北原 啓司氏>

キーワード 「成熟社会におけるまち育て」

- ・コンパクトシティの本質について
都市マネジメントの発想と都市経営は異なる。
ライフスタイルの変化を誘導
形がコンパクトな都市という意味ではない
↓
ライフスタイルをコンパクトにする
※郊外に拡散した薄いライフスタイルだけではなく、街なかの魅力を
満喫する濃いライフスタイルも選択できる都市
↓
成熟都市
- ・成熟時代のコンパクトシティは市街地の再編集
埋もれたストックをつなげて活用する
ストックを残すのではなく、育てるための編集

まちに住みながら、まちの生活を育てる
→まちの魅力を確認しながら持続させていく
→まちに関わる人を増やす
成長時代の公共政策では手に負えない。ローカルの民力が試される時代。
NPO や市民、企業との協働（市民的公共性）

＜林 省吾氏＞

次の世代である20年～30年後、地域が元気に持続するために必要なこと

- ・「発展よりも持続、安定」
- ・未来は現在の延長線上にはない。価値観も変わっていくのだ。
- ・地域の長期ビジョンが必要

（2）主な質疑応答

なし

（3）参考となる点及び課題

前半の講演では、成長社会から成熟社会への転換期にあって、目先のことだけにとらわれず、中長期的な視点に立ち、「自分たちの住む地域をどのようにしていくのか？」「どういうまちづくりをするのか？」というテーマに真剣に向き合うことの大切さを改めて学ばせて頂いた。

それを踏まえての後半のパネルディスカッションでは、県、市、町、それぞれの首長によるプレゼンが行われ、前述のようなビジョンを市民と共有しながらまちづくりをしている様が紹介された。個々の政策も参考になったが、とりわけ印象に残ったのが、それぞれのまちにおける将来ビジョンを明確に持って行政運営をされているということであった。

人口減少、成熟社会になればこそ、そこに住む住民一人一人の声や力が重要になり、それらを前進へのエネルギーに転換させることが重要になってくる。

2元代表制の一翼を担わせて頂いている議会議員として、これらを強く認識し、使命を果たしていくとの決意をさせて頂いた。

◎成果による当局への提言または要望等

当局への提言・要望というよりは、我々の活動に対して示唆を与えて頂いたような内容であったが、 ともあれ、桐生市の向かう先（少子高齢化や人口減などの事実としての将来）にしっかりと向き合いつつ、桐生市らしい将来ビジョンを、より明確に市民と共有できるような行政運営を目指して頂きたい。

そのためにも、「今、桐生市はどのような施策に、どのような目的で取り組むのか?」「それは、将来に向かってどのような意味を持つのか?」などを、市民に分かりやすく、丁寧にお示しできるような情報公開や周知のあり方なども、ぜひ研究・検討頂きたいと思う。